

ごあいさつ



松前町長

白石 勝也

明けましておめでとうございます。

皆様お元気で新しい年をお迎えのことと存じます。年が変わるたびに、私たちは今年こそ穏やかで幸せな1年であるようにという思いを新たにします。しかし、1年が終わって振り返ると、悲惨な出来事や事件ばかりが頭に残って、嫌な年だったなあと思ってしまう。去年もそうでした。いじめ、自殺、殺人、詐欺…など、暗いニュースばかりだったような気がします。

新しく年が変わりました。私たちはもう一度21世紀を迎えたときの目標を思い出して、その言葉の重みを噛みしめたいと思います。21世紀は「心の時代」「人権の世紀」にしなければいけないということです。争いの時代、金や物が支配される時代から、思いやりやいたわりといった人の心が通い合う時代にしよという願いが、この言葉に込められています。私は決して一人では生きていきません。一生のうち必ず助け合い、支え合わなければならないときがくるのです。

防災の問題がそうです。今、各地域の皆さんに自主防災組織の結成をお願いし、結成率も40%近くになりました。いざというときに備えて自分たちの地域は自分たちで守るという意識のもと、文字どおり隣近所で助け合う体制をつくっておくことが大事なのです。このほか、松前町では大地震に備えて住民の皆さんの避難場所になる学校など公共施設の耐震化にも取り組むと共に、私たちのふるさとを未来に引き継いでいくため大規模地震災害対策基金も増やしていきたいと思っています。今こそ、義農作兵衛翁の精神を実践するときだと思っています。

いわゆる平成の大合併で、全国の町村の数は1038（去年10月1日現在）に減り、村のない県が愛媛を含め13県にもなりました。合併の是非は別として長い歴史を刻んできた伝統や文化がさびれていくのは淋しい気がします。松前町は合併しなかったため、いち早く改革に着手し、19年度はいよいよ3か年改革の最後の年になります。皆さん方にも痛みを分かち合っていたいただき、財政状況が悪化するのを、ぎりぎり食い止めています。

開発の手法を変更したため遅れていました役場東の大型商業施設は、この春には諸々の手続きを終え着手できる運びとなり、来春にはオープンできる見通しです。文化都市のバロメーターでもある下水道の工事は、引き続き市街化区域内で推進してまいります。また、地震や台風による高波に備え、北黒田海岸の堤防整備も引き続き取り組んでいきます。

また、ごみの分別、減量化は住民の皆さんの協力なくしては実現できません。一人ひとりでも少し気を付けて、面倒がらずに分別し、決められた日に、決められた場所へ出すというルールを守ってくださいれば、町はどんなにかきれいになることでしょう。

去年の選挙啓発ポスターや税に関する作品コンクールで北伊予小学校の2人の小学1年生の作品が最優秀に選ばれました。こうした子どもたちの夢や希望を実現させるため、今年も皆さんと共に元気で笑顔あふれるまちづくりに邁進したいと思っています。皆さんにとって幸せ多き1年でありますようお願い申し上げます。

謹んで

新年のお慶びを

申し上げます



助役

佐伯 和雄

教育長

赤星 皓一

